

平成30年(2018年)4月24日

於. 水道部第2別館 研修室

## 議事録(大要)

【出席者】北詰委員、近藤委員、原委員、亀山委員、栢委員、木田委員、久保委員、橋本委員、濱田委員、藤木委員

【欠席者】松田委員、芝委員、田口委員、名越委員、吉田委員

【傍聴者】なし

### 議事

- (1) 諮問「吹田市水道事業の新たな基本計画について」
  - ・水道事業に関する市民アンケート調査の実施について
  - ・これまでの審議のまとめ
- (2) その他
  - ・これまでの審議のまとめ

事務局 定刻になりましたので、ただいまから第11次水道事業経営審議会第10回の会議を開催いただきます。

本日はあらかじめ、松田委員、芝委員、田口委員、名越委員、吉田委員から欠席のご連絡をいただいております。

なお、本日の傍聴希望者はいらっしゃいません。

それでは会議に先立ちまして、会長にご挨拶をいただきます。

会長 (挨拶)

事務局 続きまして、水道事業管理者からご挨拶させていただきます。

管理者 (挨拶)

事務局 それでは新たに配属された職員の紹介をさせていただきます。

事務局 (出席している異動職員、新規採用職員の紹介)

事務局 それでは、本日お配りしております、資料の確認をさせていただきます。  
(資料確認)

ここからの議事につきましては、会長にお預けさせていただきます。よろしくお願いたします。

会長 では、よろしくお願いたします。

議事の(1)は「吹田市水道事業の新たな基本計画について」となっております。二つに分けて質疑、

応答、審議という形にさせていただきますが、一つ目は水道事業に関する市民アンケートの実施について、まずはご説明いただき、これについて審議したいと思います。よろしくお願いします

**事務局** (水道事業に関する市民アンケートの実施について説明)

**会長** ご説明ありがとうございました。この点に関しても質問、審議という形で進めていきたいと思いますが、何かこの件に関して質問や意見がございましたらどなたからでも結構ですので、いかがでしょうか

**副会長** 回収率を見ますと、43.6%と結構高い回収率になっていると思います。25ページに各地域別の回答率の割合を書かれているのですが、これは回答数の総数の中での割合だと思っておりますが、送付した2,000件のうちの各地域ごとの回答率はわかりますか。というのもその地域の関心度がどうなのか分かるのではないかと思いますので、出していただければ教えていただきたいと思っております。

また、ホームページはなかなか一般の人は使わないかと思っております。ホームページに載せるのは大事ですが、それ以外にも、アンケート結果にもあるように、市報は市民にとって身近に色々な情報が入ってくる方法となっています。今は、市政の全般的な情報の中に水道の部分があって、さらに「すいどうにゅーす」により、内容を深めて情報提供している形なので、これからもこの取組を進めていただきたいと考えています。

**会長** ありがとうございます。一点目どうでしょうか。すぐに出ますか。

**事務局** ただいまのご指摘で初めて気が付いた状態ですので、数字は出しておりません。ただ、送付先を抽出する際に、地域ごとの人口割合で出していることもあり、それほど大きな差はないのではないかと思いますので、改めて確認して報告させていただきたいと思っております。

**会長** 例えば今後、地域に行ってお話をする「いどばた会議」の取組の重点地域の抽出であるとか、水道に関して関心を持っていただく色々なきっかけは他の質問で分かりますが、それが地域の特性によるものなのかとか、直接的には工事を実施している地域の方々とそうでない地域の方々の差であるとか、色々な捉え方があろうかと思っておりますので、そういったことに使える情報になるかもしれないということですので、よろしくご検討ください。

**委員** 意外に思ったのは、料金に関してあまり関心がなかったことで、安心安全、危機管理、それに付随しての施設に対する重要性、こういうところはかなり認識されているのに対し、お金に関して意外と関心が低かったかなど。

今後、「いどばた会議」等で説明されるとき料金の正当性、こういう料金をいただいておりますけれども、安心安全、危機管理に万全を期していますという点に力を入れてご説明いただければありがたいなと思っております。

**会長** ありがとうございます。料金に関する結果については、日常の水道事業への信頼とか理解があつてのことだとは思っています。大阪府の中で安い方だと色々議論はあるかもしれませんが、一番のベースは日常の水道事業に対する信頼、それからその要因についての議論があつたうえで値上げし

ていて、それに対して関心があるからだと思います。これは値上げし過ぎだとなった時にこのベースが失われていたら、それを復活させるのは大変なので、今までやってきたステップを大事にしながら進めていくことが重要ななと思っています。他にいかがでしょうか。

私からもアンケート結果の説明で、(7) 広報・PRについてとして、「水道事業の特徴で知っていることは何ですか」の設問について、10%を下回る回答として市内9か所の災害時給水拠点があることや、水道水の使用量が年々減少していることをあげておられますが、この経営審議会の比較的初期の時期に委員の方からもありましたが、2番の「基本的には税金を使わずに水道料金収入のみで経営している」が15.7%で、逆に言うと80数%の方がご存じないということです。こういった10%を超えるけれども20%を下回るようなところについても、引き続き配慮が必要かなと思っていますので、よろしくお願いします。

では、この点については一旦クローズさせていただいて、次のこれまでの審議のまとめということで、ご説明いただきその資料をもとに審議をしたいと思います。お願いします。

**事務局** (これまでの審議のまとめについて説明)

**会長** どうもありがとうございます。資料3の意見の要旨に基づいて、資料2のように答申のポイントを整理したということでご説明をいただきました。多分この答申のポイントを使って反映する形で答申の原文を書いて、まとまっていくという方向になるんだろうと思います。

一方でこれまで何度かの審議の中で各委員の皆様方からお話をいただき、それをピックアップする形でポイントとして整理しております。皆さんでご議論いただき、比較的類似したものでも項目として上げているものもございますし、この意見についてはまとめて一つの表現にした方がいいだろうということでもまとめたり、分離したり色々しながら、ポイントとして箇条書きにした点もございますので、自分の意見がこのような書きぶりで良いのだろうかとか、ここまでは言ってなかったはずなんだとか、あるいは言ったけれども具体的にどう反映されたか良く分からないとか、色々ご意見がおありになるかと思っています。ポイントということでこの内容がほぼ答申に反映されていく形になりますので、そういった観点でご審議いただければと思います。どの点からでも結構でございます。いかがでしょうか。

**委員** 三つの項目と、全然関係の無い、一つの要望ということで申し上げます。

一つ目は、資料2の答申へのポイント1ページの5番目、片山浄水所を南部拠点とするための南千里という言葉が入っているので、ここは耐震化等の必要な施設整備、耐震化という言葉を入れてもらった方が分かりやすいのではないかと思います。

二つ目は、答申にあたって、答申を見るのは吹田市長、市議員、一般市民な訳ですけども、例えば、GLPとかリスクコミュニケーションとかフューチャー・デザインとか、これらの言葉を全く知らない人でも分かるような表現が可能であればしてほしいということです。

三つ目は、かねてから申し上げているのですが、地方公営企業の経営努力のことを挙げてもらえた

らなと思います。例えば4ページの水道料金のあり方とか、企業債借入額とかですが、前回の会議での経営戦略のパワーポイントからも、向こう10年間の水道部における収入と支出の額を予測して、不足する時は料金値上げと企業債の増額ですよということですが、地方公営企業ならば企業の経営努力の部分について、もし可能であれば、4ページの水道料金のあり方の前ぐらいに項目があればよいのではないかと思うのです。すいすいビジョン2020を見れば、給水収益が平成10年度で71億円あったのが、平成20年度は58億円にも減っているということですので。

もう一つは吹田の水道部は色々な努力をしておいしい水になっているのだから、もっと売り上げを増やす努力について書いてほしいと言ったことに対し、水道部の回答として、節水という社会的使命があるのでそういう書きぶりが難しいと議事録に残っています。水道部が持っている商品は水道水のみで、この売り上げを伸ばさないと給水収益が上がらないにも関わらず、節水という社会的使命があるからそこは強調できないということですが、夏場の渇水が起こるような時期であれば理解できるが、通年で節水をいう必要はないと思います。節水という社会的使命を強調されているのだけれども、企業の経営努力という項目はあってしかるべきだと、その経営努力はどうするかといえば、例えば大口の水道利用者について、岡山市、北九州市、宇都宮市など他市の事例も見ながら、大量使用者の水道料金については減額していきますとか、神戸市、京都市の例の負担金を徴収しますよとかいうものに加えて、吹田の水道の良質な水をもっと使ってもらうようにPRして売り上げを伸ばす経営努力をしますという書きぶりがあってしかるべきじゃないかと思います。つまり、言いたいことは水道料金の値上げとかいう前に、もし可能であれば経営努力という項目があるんじゃないかということなのです。

以上の3点と、全然関係のない項目を一つ申し上げたいのは、津雲台の地元の人から、つつじ祭りのことを必ず言うておいてと頼まれています。この3年ほどつつじが綺麗な時期に開放されていないということですので、考慮してほしいということを頼まれています。以上です。

**事務局** 経営努力についてもっと書くべきではないかというご意見をいただいたと思いますが、前回の会議でも、水道水をもっと使っていただく取組が必要というご意見をいただいたかなと思います。4ページの7番の「水道水のPRや水道利用者へのサービスの充実などに努めるとともに水道水の需要につながる取組」として反映させていただいておりますが、充分ではないということだと思いますので、答申には審議会としてももう少し踏み込んだ意見をということであれば、ここの表現を経営努力という形にさせていただくことは可能かと思います。

用語の説明については、答申の作成にあたり分かりやすい言葉に置き換えるなど、事務局でまとめる時には少し考えさせていただけたらと思います。

**事務局** 南千里のところに耐震化というワードなのですが、南千里・片山送水管と言いますのは耐震化ということもやるのですが、水道施設の再構築ということで南部拠点片山に置くということを進めていく事業になっています。もちろん耐震化をしますので地震が来ても大丈夫な施設を作るのですが、ご指摘いただいた意味では今回の1ページの第7回のタイトルが、安全で強靱なと入っていま

すので、耐震化というよりももっと大きな意味で強靱というワードを使っているとご理解いただけたらなと思っております。

経営努力について先ほど事務局からご説明いたしましたけれども、ご審議をいただければと思いますが、経営努力には二つあると思っております。売上を伸ばすというのと、経費を節減するという経営努力もあると思っておりますので、経費を節減するという意味では、答申へのポイント1ページの6番の所、ハード整備にはかなりの費用が掛かりますので、必要な整備はしていくのですがその時には、事業費の縮減という視点も踏まえましてやっていきたいなというのは、これまでのご審議の中にも含まれていたのかなと思っております。

我々が色々な所で説明する時にも、経営努力というのが前提ですよと日頃から申し上げていますので、売上の方というよりも経費節減という意味合いではこれからも努力が必要と考えております。

売上の方については申し上げましたように、公営企業としての使命というのがありますので、そう簡単に使ってくださいというのは申し上げにくいなというのは、重ねてのお答えになってしまうのですが、そういう意味合いからご理解いただけたらなと思っております。

**事務局** 私の方からつつじ祭りのことについてお答えさせていただきます。この件につきましては津雲配水場の工事の関係で中止をしていますが、配水場の開放の方法については、工事が終わるまでには検討を進めていきたいと思っております。この季節になりますと電話等の問い合わせもいただいておりますので、そういうご意見も含めて開放の方法については今後検討していきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

**委員** 答申がどういう風な書きぶりになるか分かりませんが、三番目の項目について事務局からお答えいただいたわけですが、4ページの「持続可能な水道事業経営について」という項目があるのであれば、経営努力というのが(1)に来て、水道料金のあり方が(2)、運転資金保有額、企業債借入額など財政規律の考え方が(3)、くらいの形の答申になると、答申としては引き締まるのかなと思えます。

節水という考え方があるということですが、通年を通じたものかどうか分かりませんが、先ほど言いましたように平成10年度から20年度に比べて、13億円も売上が減少している。このまま節水していただくと、どんどんと給水収益が減っていく一方、水をどんどん使ってくださいというPRができないとなるとこのギャップが開いていって、社会的使命は非常時にはあるにしたって、吹田の水を使って貰うということは、71億円の売上が58億円に減っているという中で増やす努力は必要ではないかと思えます。大量使用者と一般市民が使う総水量で必要な給水収益を確保していたのが、大量使用者が逃げた分、給水収益が減っているわけです。大量使用者にまた使ってもらえるように逓増度を減らすとか、大量使用者のニーズも聞いて、バランスよくやっていただくことが結局は持続可能な水道事業経営につながるんじゃないかと思っておりますので、また考えてください。

**会長** 吹田市内に必要な水の需要を十分に水道事業で賄うという意味合いであれば、もしかする

と売上増の観点もあるのかもしれませんが。複雑な要因が絡みながらの議論ですので少し整理が必要だと思えます。意図の明確な部分としては、経営努力という点について、もう少し明示的に大きく扱えないか、かつ水道料金に関わる議論の前提であることを明示するために、その前に置けないかと言ったところがメッセージのポイントだと思えますので、その可能性について考慮したうえで最後に答申を考えたいと思えます。どうもありがとうございます。他にありますでしょうか。今日は出来れば皆さんにお話し賜われればと思っております。

**委員** 先日、島根・鳥取で震度5を超える地震があって、新聞で見た限りなのですがかなりの世帯数が断水の被害に遭われて、震度5でもかなり危ないなと感じました。新聞には経年劣化で古い管が多くて被害が甚大になったと報道されていたと記憶するんですが、20年前の阪神淡路大震災の時には江坂周辺が全壊や半壊など家屋の倒壊はかなりあって被害数も多かったのですが、意外と水道管が破損したというニュースを耳にしなかったのですが、当時の状況は分かりますか。

**事務局** 私の知る限りでは本管自身の破損というよりも給水管の破損が多かったように思います。当時、我々が数台の車に乗りまして発生直後から深夜、翌日まで直営班で修理に回ったように記憶していますが、本管自身が折れて大規模な漏水になっているというようなものは記憶にございません。

**事務局** 今、申し上げた通りなのですが、もう一点付け加えますと、泉浄水所の中で当時高架洗浄水槽というタワー式のタンクがあったのですが、それが被害を受けまして使い物にならないということですので撤去したという被害が出ています。それに代わる洗浄水槽が今はもう建っているのですが、浄水所も被害を受けたということも付け加えさせていただきます。

**委員** それから20年経過して経年劣化が進んでいる可能性もありますし、次の南海地震が近い将来可能性がありますので、強靱化という範囲の中で結構なのですが、耐震性の工事を前倒ししてでも早められたらどうかなという気がしますので、現状で良いのか、前倒しも考えられるのか考えをお聞かせください。

**事務局** 水道本管の更新については、管路の総延長が約700kmでその1%にあたります8km弱を目標に現在更新を進めておるわけですが、対象といたしましては脆い継手の鋳鉄管とビニール管の更新をピッチを上げてさせていただいているところです。今後につきましてはそのペースを維持しながら引き続き更新に努めたいと考えております。

**事務局** 少しだけ補足をさせていただきますが、いわゆる浄水施設や配水池の耐震化は、本市水道部におきましては既に配水池の90.3%が耐震化されております。また、平成28年度から片山浄水所の水処理施設の更新工事であったり、片山・泉の連絡管工事であったりというところは、耐震化を念頭に置いた工事の一つでもございまして、既に一步を踏み出しているということをお伝えさせていただきます。

また、次の10年間の新すいすいビジョンの中の目玉の工事として先ほど名前が挙がっておりましたけれども、南千里から片山へ太いパイプで企業団水を充分取り入れることができる配管整備をすると

いうことも、いわば耐震化を念頭に置いた事業に既に一步を踏み出しているということでご理解賜わりたいと思います。

**会 長** そういったポイントを書きぶりに反映していただければと思います。他いかがでしょうか。

**委 員** 今2大工事をされていると思いますが、順調にいつているのかどうか進捗を教えてくださいたいと思います。

**事 務 局** まず片山・泉浄水所の連絡管の進捗につきまして、私の方からご説明させていただきます。当該工事はシールド工事で進めさせていただいています。今、大阪高槻京都線西の庄の交差点から少し京都よりに、アサヒビールさんの向いの迎賓館の庭園をお借りし、そこにシールドの発進基地を設けて片山と泉に向けて両発進をするわけですが、その立坑ができまして、先だって1台のシールドマシンを立坑の中に降ろしました。今後、発進基地の建屋を作っていきたいと考えています。

**事 務 局** 片山浄水所の水処理施設の更新工事の進捗状況ということですが、28年度から現在の主なところを言いますと、場内の造成、場内配管の耐震化、布設替えといったところに取り組んでいます。今年度の後半頃から排水処理棟などの建築物に順に入っていくのかなと考えています。

あと、地域住民の自治会の皆様にも大変ご理解をいただいております、工事の全体の工程としては非常に順調に進んでおります。以上です。

**会 長** 1ページの2であるように、平成32年度完成に向けて、円滑な進捗を図る必要がある。という書きぶりで、審議会から答申でもっと頑張れとか書かなくても良いかなと言うことだと思えます。

**委 員** 全体に施設整備だったり管路の更新と耐震化だったり、安全を守り続ける水質管理などたくさん課題がある中で、やっぱり財政確保のために料金の値上げをしていかなければいけないなと思っていくと思うのですが、こんなことばかり言って申し訳ないのですが、料金が上がってくるとやはりそれが必要だと分かっているけど生活が大変で、水道料金そのものが値上げされていくと支払えないという人も出てくると思うので、そういった方への減免というかそのような制度も作っていかなければいけないということも考えてほしいと思います。先ほどアンケートのところ、半数近い方が回答しておられて、水道料金についてはそれほど、というご意見もあったのですが、本当に生活が大変な方というのは、アンケートが送られてきても封筒を開けてきちんと答えるという余裕もなかったりすることがあると思うので、意見がなかなか表には出ないのかなと思います。そういったことも踏まえて、料金は上げていかなければいけない事はあると思いますが、それに伴って大変な思いをされる方もいるというところを反映した形でしてほしいなと思いました。

**会 長** ありがとうございます。お答えがあるようでしたらお願いします。

**事 務 局** 本当に困っている方への配慮が必要だというご意見だと思います。今日お渡ししましたアンケートの冊子のなかにも、そういったご意見もごさいます。年金生活なので出来るだけ安くといっ

たご意見もございますので、私どもとしても施設整備が大変なのでそういったことを切り捨ててやっていくということは全然思っておりません。その中で、4ページの2番に料金設定についてはというくだりがあるのですが、その2行目の所に生活者への配慮を前提としながらという文言を謳っています。私ども吹田市の水道料金は、まだ府内でも安価な方であるということで、私どもの言葉としては福祉型料金ではないかと自負しているところがあります。

一方で先ほど委員からありましたように、このままですと大口さんが水道から離れられてしまう。そうなれば逆に生活者のところで離れられた分を負担していただかなければならないと言うことで、そうなりますと上げざるを得ないということになりますので、その辺のバランスを見ながらと言うのが非常に難しいところかなと思っておりますので、その辺のバランスについては十分に留意して、今後必要な料金改定を必要な時期にしていかなければならないと思っております。答申の方については、このような生活者への配慮を前提という言葉で盛り込んでいただいています。

**会 長** 昨今よく言われている、SDGs、Sustainable Development Goals、というのがありますが、すけれども、あれの基本的コンセプトは、いろんな人がいろんなことを言っているのですが、きつい表現をすると、誰一人置き去りにしないという言い方、柔らかく言うと全ての人に対してと言うことになろうかと思えます。水道事業はまさしく誰一人置き去りにせず、全ての人に対して然るべきサービスを供給すべき事業ですので、例えば全ての生活者への配慮という表現で、少し今の委員のお気持ちをカバーするようなことも可能かなと思えます。水道事業は、皆さん身にしみて感じておられるように、あるいは言葉の端々に感じる事が出来るわけですからけれども、全ての方に安全で安心な水を供給するという意気込みでやっておられるわけで、答申の中でも確認する意味で強調するような言葉を入れてもいいかなと思いました。

**委 員** しばらく大阪を離れておりましてあまり出席できず失礼いたしました。4月に大阪に戻ってきましたのでまたよろしく申し上げます。今まで参加できなかった分、どういう形で進んだかをあまり覚えていない状況ですので、その上で私なりに思ったことを、三点述べさせていただきます。

一点目は、先ほど委員の方からも話が出ました用語について、私は以前にフューチャー・デザインについてお話させていただきました。その後しばらく離れておりましたものの、こういう形で入れていただいて非常にありがたいなと思っております。用語については確かに説明の言葉が入った方が良いでしょうと私自身思っております。色々定義を作ってはいるのですが押し並べて言うと、例えば「将来世代の視点から施策を考える」フューチャー・デザインとはそういう言い方があるかなと思えます。最近では日経新聞が取り上げてくれたりですとか、5月の11日と聞いていますけれども、NHKのラジオで多言語放送という、英語、中国語、韓国語などで日本のニュースを配信する番組で、フューチャー・デザインの話が海外に発信されるそうで、最近NHKの記者さんにフューチャー・デザインとはどういうものなのかお話ししました。一言でいうと先ほどの表現で良いかなという気がしており



ます。またもし他にあれば連絡させていただきます。

二点目は、それでセッションさせていただいたときに、僅かの時間ではありましたが将来世代の立場の方々から出た意見で非常に特徴的なものもあったかなと思いました。例えば今回のテーマについて答申の案と重ねて言いますと、一点、水源の安定確保というのがありました。これは物理的な水道施設の改修、耐震をしていくという話はしっかり書かれています。そこは進めながらも何かあった時のために「給水源の安定確保に努めながら」ということを入れていくことが必要かなと思いました。なぜかという、昨今、熊本地震もありましたが、地下水脈というのは変化をしていくわけで、一時的に水源の帯水層が変化する可能性もあるので、そういうことは考えておく必要はあるかなと、将来の状況を勘案することも考える必要があるかなと思った次第であります。その点を少し入れていただくと非常にリスク対策という意味では柔軟性が出てくるかなという気がします。

地下水に依存していくということは非常に大事なことである一方で、水質の問題とか、2004年にインドネシア沖で大きな地震があった時に大きな津波が起きて、スリランカなどでは井戸水を使っていましたから海水が水脈を塩水化してしまったりとか、トイレの水によって水質を汚染してしまったりとかがあって、日本はそういうことは起きにくいし、リスクは低いとは思いますが、水源の安定確保はすごく大事かなと思いました。

三点目は、1ページ目の長期的な視点から計画的に水道管を更新していくということが、9から10あたりに書かれています。これはこれで良いと思いつつ、例えばこれから20年、30年先のプランを考え、更新をしていくと、長い水道管のどこから更新をしていくのかと考えた時に、物理的に劣化している所から変えていくという考え方が一つあり、これは基本だと思います。それ以外に災害リスク等を考えた時に、皆さんが集まって給水をして、一時的に避難する所、例えば公園とか学校の運動場とかそういう所をまず先に更新しておいて、それ以外の所を順次やっていくという考え方も一方ではある訳ですね。それが災害リスクとか社会的な状況により配管の優先順位を考えた評価の仕方なのだと思うのです。

文言は分かりませんが、災害リスクや社会的ニーズを踏まえて優先順位を決めるとか、強靱化を図るといったことを考えるとそういった観点も必要かなと思いました。従って劣化とか物理的な評価と社会リスク的な評価を合わせて優先順位化していくことが、柔軟な水道管の今後の設計のあり方を担保するのではないかなと思った次第です。そんなある種フューチャー・デザインの議論のところからも、少しそういったニュアンスの物が出てきて、私も参考にさせてもらって発言させてもらいました。以上三点です。

会 長 どうもありがとうございます。お答えがございましたらお願いいたします。

事務局 私どもフューチャー・デザインをどういう風に説明したら分かっていたかと思っておりまして、今いただいたワードを取込んでいただけたらなと思っております。

二点目の水源の安定確保ですが、私どもも非常に重要な施策だと思っております。1ページの3番

に片山浄水所の充実に向けて地下水源の確保を入れていただいておりますので、現在の私どもの施策に合致するものになっているものと思っております。

三点目ですが、機能性だけではなくリスク評価の面から優先順位を付ければどうかと言いますと、1ページ14番にそれと似かよった分を少し入れていただいているのかなと思います。基幹管路のうち重要給水施設管路や場内管など耐震化効果の高い路線というのがありまして、こちらは国の方でも小学校、中学校、拠点病院などは耐震化を優先ルートとして設定するようにと通達がありますので、先ほどのご意見をいただきまして、今後も留意していきたいと考えています。

水源安定確保での複数水源と言うことで言いますと、私どものマスタープランでは淀川表流水はゆくゆくは企業団の方からと言うことで、吹田市としてはそれに対する複数水源として地下水の確保というのをマスタープランで謳っております、そのあたりのことも大変重要と考えています。

**会 長** それぞれ書くべき項目はあるのでどういう風に膨らませていくか、それをどこまで具体的に書くのか、それはその先の事業を具体的にイメージできるものまで書き込むのか、この段階でここまでという、そのあたりの差引を考えていただきながらご意見を反映していただければと思います。

その他いかがでしょうか。

**委 員** 大きな水道管は順番に更新されていくと思うのですが、例えばマンションの中の小さな水道管に関してですが、以前水道のメーターを替えに来られた時に、この管はちょっとだけ鉛が付いていますので浄水器を使ってくださいと言われたことがあるのです。そういう鉛管をマンションとか個人で使っている場合は、配管を替えていくら清浄な水を吹田市から送ったとしても、そこで滞ってしまうことになると思うので、鉛管を替えた方が良いというPRは水道部でやっておられるのでしょうか。

**事 務 局** まず鉛製給水管の取替えに付きましては、平成22年度から配水管からメーターの手前まで私どもの方で無償で取替えをさせていただいております。宅内の給水管に鉛が残存していることにつきましては積極的にPRはさせていただいておりませんが、それは個人の給水管ですので個人で取替えをしていただかなければならないということです。実際のところ大きな建屋でありましたら、縦管の部分につきましては強度の問題で比較的、鋼管やビニール管が使われております。もし鉛管があるとすれば個人で設置をされた各戸のメーターの両サイド位だと思います。そこをどのようにPRしていくかということにつきましては、課題であるとは考えております。

**委 員** 小学校で防災の訓練をした時に小学校の屋上に雨水を溜めて水道水に変えられる装置ができていますと聞いたのですが、そういう災害時に雨水を水道水に変えられる装置は避難所には全て設置されているのでしょうか。そこまではいつてないのであれば、これから順番に設置していただければ災害時に水道管が使えない時に水を使えるということになるので、進めてもらえるとありがたいと思います。

**事務局** 屋上に雨水を溜めてそれを水道水として利用するということにつきましては、私は承知しておりませんで、以前太子町のスーパーマーケットでタンクに雨水を溜めて、それをトイレの水に使用しているということがありました。それは飲み水ではなくて、雑用水として使用されていることはあるかと思います。小学校での災害時の給水につきましては、基本的には給水管までを耐震化するのが最終目標で進めてはおりますが、現在、災害時の避難所への給水につきましてはタンク車でいくか、貯水タンクを我々の方で購入させていただきましたので、それを組み立ててそこに給水をし、皆さんにその水を飲んでいただくという給水方法で考えさせていただいております。

**委員** すみません。私の勘違いだったかもしれません。

**事務局** 我々も研究したいと思います。

**事務局** 委員のおっしゃっている小学校は西山田小学校かと思いますが、そこには雨水を浄水する装置はありますのでそれは間違いではございません。

**事務局** 水道部で可搬式浄水装置という小型でプールの水とかを浄化して飲み水に出来るという装置を持っております。それは北部の7校の小学校に配備されており、そのうちの一つが西山田小学校だったかと思います。地震とか災害の時はそういった装置も使いながらと言うことが可能になっております。ただ、浄水できる量が少量で全ての人の飲料水が賄えるほどの量ではありませんで、本当に緊急時の水と言うことでご理解いただきたいと思います。

**会長** いったん事が起こった時に、水をどう確保するかというのを総合的に考えた時に、水道部の事業がどこを一番重点的にやらなければならないか、あるいはどういう役割をメインに担うべきかというのを整理したうえで、やっていくことが重要だと思いますし、平常時にちゃんとした準備をどこまでやっていくかというのは、施政全体として、防犯も含めてあるいは危機管理も含めてやる中で、水道部がどこまで貢献するかという立ち位置を考えていければいいかなと思います。とても重要な指摘だと思いますので水道部として留めておく必要があるのかなと思います。

他もしございましたらお願いします。

**委員** 4ページの水道料金のあり方の中で、水道離れというのがあって、同じページの(4)で地下水利用と言うことになっていますけれども、水道離れイコール地下水利用と判断させていただくのですが、大量使用者というのは工場等かなと思うのですが、水道離れをして地下水利用へと設備を変えられたところは、簡単に水道に戻すことは可能なのでしょうか。例えば、相当な設備をされてから地下水を使っているのか、あるいは簡単な切替で水道と地下水を切替えることが出来るのですか。

**事務局** 地下水利用専用水道は地下水を汲み上げてそれを売る業者さんがおられまして、それをイニシャルコストをかけてやっておられると思いますので、それを耐用年数の途中で急に転換とかはなかなか難しいのかなと考えております。

**委員** 切替えたところはすぐには戻せないと言うことであれば、出来るだけ増増料金を改善していただいて、大量使用者が出来るだけ地下水の方に行かないように、先ほど委員が言われたようにト

一タルの収入が減ってきていると言うことは問題だと思いますので、水道離れで新しくイニシャルコストをかけられる前に、水道を使っていたような策が練れたらと思います。

**委 員** この会議には半分ぐらいしか出席できていないのですが、いつも議事録を送っていただいておりますので、私のすることは、この会議のこの場面を市民に、私の近くの人にだけでも、皆で相談してこうして決まっていると言うことを、地域でもいろんなイベントがありますのでその時に、もっと皆さんと一緒に話合いの場を作れたらいいかなと思っております。ぜひ皆さんと一緒にPRしていきたいと思っております。

**会 長** よろしく願います。この中でも地域の水道のあり方というような項目でありますとか、市民の皆さんに伝えると言うことがたくさんございますので、是非そのあたりを強調して書いていただければと思います。

大体一通りは伺いましたが、まだまだいくつかの項目言い残したところがあればお話しいただきたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

**副 会 長** 色々な議論をこれまでしてはいますが、水道事業は料金と事業計画という二つの部分で進んでくると思うので、先ほども委員さんからありましたように、料金と事業とうまくミックスして価格が安定するような形にするのが非常に大事だと思いますけれども、収入を向上するのが非常に難しくなっている中で、どういう風に理解していただくかと言うことが非常に大事で、この中でもかなり議論されましたので、それを今回の答申で大きな三点の要素の中でどう汲み取っていくか、それを今回上手くまとめていただいているので、今日の意見を踏まえて表現をもう少し整理をまとめていただければありがたいと思っております。

**会 長** 今日の審議、ここのポイントを踏まえて答申案ができてきますので、言い残したことはございませんでしょうか。

私からひとつだけ申し上げます。水道事業は日本全国的に見ると、あるいは世界的に見ると本当にドラスティックに変わっている時代です。技術もそれから民間のノウハウも制度も、やむを得ず変わらざるを得ないという中で変わっていくわけです。その中で吹田市の水道事業については、これまでも皆様方の努力で着実に水道の本業として、相対的には円滑でかつ安定的な事業を進めておられるわけですが、先ほどベンチマークの議論もありましたけれども、日本全体の水道事業に関わる動向をちゃんと見ておいて、その上で必要なことや必要なアイデアがありましたら、この着実な水道事業の中で反映していくという、意気込みとか思いとかかチャンネルといいますか、そういったものは持ち続けて進めていく必要はあるということだけは指摘をさせていただいて、しかしながら今回の答申はここでまとめていただいた範囲で良いと思っております。上手くやっているからこそ見過ごすことの無いようにということだけ指摘を申し上げておきます。他にはよろしいでしょうか。では、この議事に関してはクローズさせていただきます。

では、その他と言うことでお願いします。

**事務局** (今後のスケジュールについて説明)

**会長** このスケジュールに関してご質問ございますか。

大変恐縮なのですが、資料で四角く囲っているところですが、すなわち答申の案が皆様のお手元に届いて、一週間程度で確認、意見を返信していただくこととなります。このタイミングが最後に皆様からのご意見を賜るチャンスでございますので、ぜひここで読み取っていただきたいと思います。

私からのお願いとして、その下に最終案とございますけれども、実際それぞれのご意見を踏まえてどういう最終案にするかについては、大変恐縮ですが、私、会長と副会長の二人にご一任賜われればなという風に思っておりますが、よろしいでしょうか。それでは、最終案については一任賜わるという形にさせていただきます。では、私の方はこれで終わります事務局にお返しします。

**事務局** 本日はありがとうございました。先ほどご説明させていただきましたとおり、次回の審議会は5月25日午後1時からの開催とさせていただきます。場所は同じくこの場所でさせていただきます。改めまして正式な開催のご案内は郵送でお送りさせていただきます。ありがとうございました。